

平成20年2月15日

大垣市長 小 川 敏 様

大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会

座 長 鈴 木 誠

大垣市ユニバーサルデザイン推進指針（案）について（提言）

近年、大垣市では、高齢化の進行、国際化の進展、市民生活圏の広域化、市民の価値観の多様化などが急速に進んでいる中、これからのまちづくりに向け
ては、「誰もが暮らしやすい社会づくり」が求められています。

当研究会では、こうした社会づくりに向けて、平成19年9月20日から、
大垣市におけるユニバーサルデザインを生かしたまちづくりについて、全国の
先進事例を研究しながら、議論を重ねてまいりました。

「誰もが暮らしやすい社会づくり」に当たっては、これまで取り組んできた
バリアフリーを一層推進しながらも、その上で、ある特定の人のためではなく、
性別・年齢・身体的特性・国籍などの違いを越えて、はじめからすべての市民
の多様なニーズを考慮するユニバーサルデザインのまちづくりを進めること
が必要であると考えます。

このため、本日、「住んでよし、訪ねてよし、すべての人に優しい、思いや
りいっぱいのもち・大垣づくり」を理念とし、大垣市内に住むすべての人々が
安全で安心して暮らし続けられるとともに、大垣市を訪ねる人々が感動し楽し
んでいただけるよう、思いやりいっぱいのもちづくりを進めるため、「大垣市
ユニバーサルデザイン推進指針（案）」を提言します。

そして、今後、この指針（案）に基づく市民・事業者・行政の協働による取
り組みが、市民一人ひとりがいつまでもかがやき続け、市民の魅力で活力あふ
れるまちである「かがやきライフタウン・大垣」づくりと一体的に進めること
により、「飛躍」、「輝き」、「安心」を3つの柱とする「ダイナミックシテ
ィ大垣」のさらなる発展につながることを祈念いたします。